

■佐久間信盛 武将。織田氏家臣団の筆頭として、約30年間、連戦し続けたが、信長に口答えて根に持たれ、追放された。

さくまのぶもり  
大内義興没・1528＝ この頃、尾張国愛知郡山崎で、生まれる。

・・・・・・ 1534＝ 6歳：この年、織田信長が誕生。

・・・・・・ 1537＝ 9歳：

織田信秀に仕えて、

鉄砲伝来・ 1543＝15歳：

幼少の織田信長に重臣としてつけられ、

足利義輝将軍1546＝18歳：

ザビエル来日1549＝21歳：

大友布教許可1552＝24歳：\*信秀が死去して、家督相続問題が起こると、一貫して信長に与し、信長の弟信時を守山城に置くよう進言して、信長の叔父織田信次の家臣を寝返らせ、信長の弟信行の謀反の際も、信長方の武将として戦って(稲生の戦い)、その功で、以後、家臣団の筆頭格として扱われ、信長に従って、主要な戦ほぼ全てに出陣。

大陸邦民事件1555＝27歳：

桶狭間の戦い・ 1560＝32歳：桶狭間の戦いでは、善照寺砦を守備し、戦後に鳴海城を与えられる。

川中島の戦終1564＝36歳：

岐阜楽市楽座1567＝39歳：徳川家康の長男信康に、信長の娘徳姫が嫁ぐ際、岡崎城まで供奉して、西三河の地を任された。

織田信長入京1568＝40歳：この頃は、大和方面を担当して、松永久秀とも面識があったらしく、信長上洛後には、畿内の行政担当者の1人に選ばれ、久秀を交渉で味方に付けている。近江国の六角義賢・義治父子との観音寺城の戦いでは、箕作城を落とすなどの戦功をあげ、\*殿軍の指揮を得意としたことから、"退き佐久間"と謳われる。

石山合戦始・ 1570＝42歳：浅井長政が信長に敵対すると、近江永原城に配置されて、柴田勝家と共に、南近江を平定し(野洲河原の戦い)、姉川の戦い、志賀の陣にも出陣。

比叡山焼討・ 1571＝43歳：比叡山焼き討ちで武功を上げ、知行地として近江国栗太郡を与えられた。松永久秀が、敗死した和田惟政の居城高槻城を接收しようとした際、交渉して撤兵させ、久秀と争っていた筒井順慶の帰順交渉も担当、久秀と順慶を和睦させるなど、\*吏僚としての力も発揮するが、

三方原の戦い・ 1572＝44歳：\*武田信玄が三河に侵攻してきたため、徳川家康軍の援軍に派遣されるも、武田軍を目の当たりにして、徳川軍に勝ち目はないと判断して、退却、連合軍も惨敗し(三方ヶ原の戦い)、信長から卑怯者扱いされ、

室町幕府滅亡1573＝45歳：\*一乗谷の戦いの直前、朝倉義景軍の追撃を免れた家臣の面々が、信長の叱責を受けた際、思わず口答えて、信長をさらに怒らせ、所領没収の厳罰を下されそうになる。他の家臣達の取りなしで、その場では処罰は免れ、その後も戦果を挙げて、畿内制圧に貢献するもの、信長からは根に持たれることとなる。

長島一揆鎮圧1574＝46歳：武田勝頼が明智城を包囲した際には、援軍として派遣され、六角義賢の石部城を攻略して入城し、長島一向一揆攻めでも、馬上から数多くの一揆勢を切り捨て、

長篠の戦い・ 1575＝47歳：家康のもとへ派遣され、長篠城等の武田・徳川領国の境目の城々の検分を行い、吉田兼見から扇を贈られるなど、事務的な仕事もこなしながら、信長に従って、三好康長を降伏に追い込み、長篠の戦いでは、武田方へ虚偽の内通を行って油断させ、勝利に貢献。越前一向一揆征伐にも参加。\*嫡男信忠に家督と岐阜城を譲った信長を自らの館へと迎えた際、新たな居城築城(安土城)の構想を信長から打ち明けられ、助言を求められ、武田氏と内通したことが判明し、怒った信長の命で、暗殺された水野信元の居城刈谷城と所領の西三河が与えられて直轄領に組み込まれたというから、まだ、家臣筆頭として扱われている。

安土城築城・ 1576＝48歳：石山合戦の一環の天王寺の戦いで、救援に向かった織田軍の先陣を務めて奮戦し、本願寺勢を打ち破って城衆を解放し、対本願寺司令官(のちに畿内方面軍に改編)に就任、配下の軍団は織田家中で最大規模ながら、積極的な攻勢に出ず、戦線は膠着。この間も、織田軍の部将として各所への出陣を繰り返し、

安土楽市楽座1577＝49歳：雑賀攻めに参陣し、鎮圧に向かう。天王寺砦に詰めていた松永久秀・久通父子が退去して謀反を起こし、信忠に従って久秀討伐に加わり、羽柴秀吉、明智光秀、丹羽長秀と共に信貴山城を攻め落とす。

上杉謙信没・ 1578＝50歳：毛利氏が大軍を擁して播磨国へ進軍したとの報に、信長は自身が出馬することを表明すると、滝川一益、明智光秀、丹羽長秀らと共に懸命に諫め、何とか思いとどまらせ、信忠、信孝に従って播磨国へ出陣。堺に赴いて\*九鬼嘉隆が建造した大船を見物した信長が、その帰りに津田宗及邸での茶会に参加した際、滝川一益と共に、信長の相伴にあずかり、別格の扱いを受け、荒木村重が謀反を起こした際には、村重に与した高山右近の切り崩しを担当、宣教師に説得させて、寝返らせるなど活躍していたが、

石山合戦終・ 1580＝52歳：\*10年続いた本願寺との戦いに終止符が打たれるや、信長から、それまでの行動を問う、19ヶ条にわたる折檻状が届けられ(すなわち追放され)、織田家を辞して、嫡男信榮とわずかな郎党と共に、高野山向かい、

本能寺の変・ 1582＝54歳：わずかな期間がらも、平穏に暮らして没した。数か月後には、信長が明智光秀に暗殺されるのである。直後に、信長は織田信忠付の家臣として帰参を許されたように、すでに哀れまれていて、最後まで付き従った者は、忠誠心を賞されて小者の身分から士分に扱われたという。畿内方面軍軍団長の後任になった明智光秀は、佐久間信盛への情け容赦ない処分に、明日はわが身と、立ち上がったともいわれる。